

町教委；大森教育長、井上指導主事、
内田学校教育課長、宮地係長
知教労；鳥居、内田、佐田

1 泊を伴う行事の休憩・勤務時間の適正な管理について

町；教頭研修会で適正化について働きかけ、改善を依頼した。児童生徒の活動時間と休憩時間が重なっていて、改善が必要なところがある。

知；豊浜中は修学旅行の休憩時間が8時間45分で、丸1日休んでいることになる。また林間学校での7時間の休憩では活動が成り立たないはず。労基法上必要な1日1時間の休憩が妥当である。その点で、師崎中は大変前進し3時間になった。校長の意識如何であるので、再度指導してほしい。

2 勤務時間の適正な管理と労働安全衛生管理体制

①適正な労働時間の把握を

町；校長会、教頭研修会で、在校時間を適正に把握して疲労を蓄積させないようにすること、校長、教頭も記録をとるよう依頼した。タイムカードやICカード導入は、費用がかかるため考えていない。

②労働安全衛生管理について

町；教頭研修会において、超過労働時間が80時間、100時間以上の職員の産業医への面接を周知するよう伝えた。産業医による定期的な職場巡視は考えていないが、メンタルヘルスにおける問診については、学校教育課へ相談すれば産業医につなぐことを教頭研修会で伝える。

③具体的な労働軽減案を

町；具体案がない。各校での取り組みを町校長会で促すが、他地区との絡みもあり、検討課題である。

(1)部活動時間の縮減

知；教員の超過労働原因の最たるものが部活動であることは周知の事実。しかし各種大会があり、自分の学校だけ練習時間を削減することは容易ではない。教委の指導による、足並み

をそろえての部活動縮減への改善策が必要である。

町；9月16日付け文書で、「土・日のどちらかは休みにする」旨、各校長に通知した。

知；部活の社会教育への移行は30年来の課題であるが、今日までずるずると続いている。思い切ってメスを入れなければ超過勤務削減は進まない。

部活動は本来、自主的自発的なものであり、教師にとっては、勤務時間後の活動である。一つの提案として、生徒は希望制に、教師は全員顧問をはずすことはできないか。また大会の規制も必要であり、勝つためだけの部活動であってはならない。

町；検討したい。ただ、小学校では、部活動を行っていない児童もあり、部活動をやらない先生もいた。

知；小学校の部活動は指導要領にもなく、半田や武豊では部活動がない。小学校は部活をなくしていく方向で進めてほしい。また、「部活動をやらない先生」は存在してよいか。

町；学校の中で話し合い、部活動のあり方を検討してもらいたいと考えている。

知；「『家庭の日』には部活動を行わない」との取り決めが守られていないのでは。また「朝練習」についても、小牧など行っていない地区もある。知多市の教育長からは「夏の朝練習をなくしたら」という考えを聞いた。いずれにしても教委から文書を出すなど、主導してほしい。

町；「家庭の日」については、再度校長に確認する。「朝練習」については検討する。

(2)その他

町；労働時間の削減には、小さいことでも積み重ねが大切。役場から各学校への依頼文は、できるだけ事務量が減るように各課に依頼した。（「子育て講演会の参加希望」は、学校で集めずに各自直接メールで）

④連続7時間45分勤務した場合について

町；「職員が休憩の取れないまま連続7時間45分勤務した場合、その時点で拘束を解くこと」を校長が各学校で周知するよう指導する。

⑤教頭、教務、校務は専科教員としての授業を

町；授業時数の均等化が望ましいが、教頭は多様な問題への対処、教務主任は出張の補欠などの対応があり、校務主任は9校で担任を持っている。成績までつける教科を受け持つことがなかなかできないが、各学校の実情に応じて、管理職が担任をフォローできるように周知する。

⑥給食事務は事務職、教頭で

知；給食（職員含む）の食数変更等の事務、会計は授業を持っている教員には大変負担である。事務職の方をお願いしたい。そうしている地区が多い。

町；理解できるので、各校で工夫してもらうよう校長会議で伝える。

知；献立表や保護者への配布物等は、各校で増し刷りさせる方法を改め、給食センターで印刷するよう指導してほしい。「検討する」ではなく、実現を。

3 教育条件整備等について

①男女混合名簿の推進について

町；今年度内海小と豊浜小の一部で導入された。町教委も、従来の男女別報告を全体数報告に変更した。

②；電子黒板の導入を

町；今年度、大型テレビ用の電子黒板キットを導入する。27年度（小学校）、28年度（中学校）には、デジタル教科書の予算要望もしている。

③；「わたしたちの道徳」の使用を強制しないで

町；強制はしていない。有効に活用を。

④教職員等の出版物の公費負担について

知；「知多の友」は使いにくく無理をして使ってい

る現状。中学の「数学のリープ」も市販のものでよいものがたくさんある。教員の労働時間削減の観点からも、教員が作成する必要はない。発行当初は教員が必要を感じて作成したと思うが、今は状況が変わってきており、インターネットでも様々な問題が手に入る。発展的解消と考えたい。

町；教職員会のものは「先生方が子どもたちのために作ってくれたもの」という認識で公費負担をしている。

知；やめた予算を、例えば支援員の補充に回すなど、別の予算に回すことはできないのか。

町；町長の考えは「不要なものはやめる」「いる物は買う」である。「予算の枠があるから何かに当てる」ではない。今年度は校長会で検討し、「書写練習帳」の公費負担をやめ、「夏休みの友」を負担することにした。

知；各学校が自由に選ぶ副教材の費用を、「副教材補充費」として予算化することはできないか。

町；学校によって金額にばらつきが出てしまう。教育の公平性を保つため、各校共通して欲しいものに対して補助する考えである。

⑤各種団体への作品応募を強制しないで

知；作品応募は自主的なものであり「原則各校1点提出」の通知はあり得ない。

町；検討する。

⑥1学級が35人をこえる場合の教員加配を

町；町独自の加配は無理だが、支援員の充実で対応する。今年度1名増員した。

⑦学校統廃合計画について

町；「町で中学校1校」の基本構想について、保護者、教師にアンケートをとる計画がある。（具体案は未定）

知；100人以下の学校は子ども一人一人へのケアが行き渡る。少人数の良さを踏まえて考えてほしい。